

令和4年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】」
都道府県薬剤師会実施事業(モデル事業)

事業実施報告書

令和5年3月

公益社団法人新潟県薬剤師会

I 事業の概要

1 事業の目的

- ・薬局におけるかかりつけ機能として、妊娠中・授乳中等に関する適切な情報提供を行うことができる体制整備を目指す。県内の指導、相談対応状況は把握できていない。
- ・薬局それぞれの取組により一部の薬局で女性の健康相談に対応していると思われるが、県民に周知されておらず、多くの県民は薬局における相談対応状況を認知していないと思われる。
- ・妊娠中・授乳中等に関し相談しやすい環境を整備した薬局を「妊娠と授乳のくすり相談」に対応できる薬局として周知することにより、地域の薬局が県民の健康相談に対応する体制を構築する。

2 事業の構成

- (1) 新潟県における薬局及び県民の実態把握
- (2) 薬局薬剤師に対する研修の実施
- (3) 対応薬剤師・薬局リストの作成・公表と薬局間連携ツールの導入
- (4) 医療機関等との連携

II 事業成果

1 新潟県における薬局及び県民の実態把握

(1) 薬局における体制及び情報提供の状況調査

■ 目的：

本調査では、県内の薬局における妊娠と授乳等、女性の健康に関する相談等への対応状況と、健康相談のために来局しやすい環境の整備状況の実態を調査する。

■ 調査期間及び方法：

令和5年3月

Webアンケート調査

■ 対象：

新潟県内に所在し、薬剤師会会員が勤務する保険薬局 1,082 薬局

■ 調査内容及び結果：

回答数 783 件（回答率 72%）

回答した薬局の薬剤師の常勤数は平均 2.3 人で、健康サポート薬局の届出をしている薬局は全体の 10%であった。

アンケートの結果、健康相談に対応するための環境として、相談窓口等を設置しているが 62%、相談スペースを確保しているが 45%、相談内容が他の利用者に聞き取られないよう配慮しているが 44%等と、多くの薬局で相談を応需できる環境を整備していた（図1）。

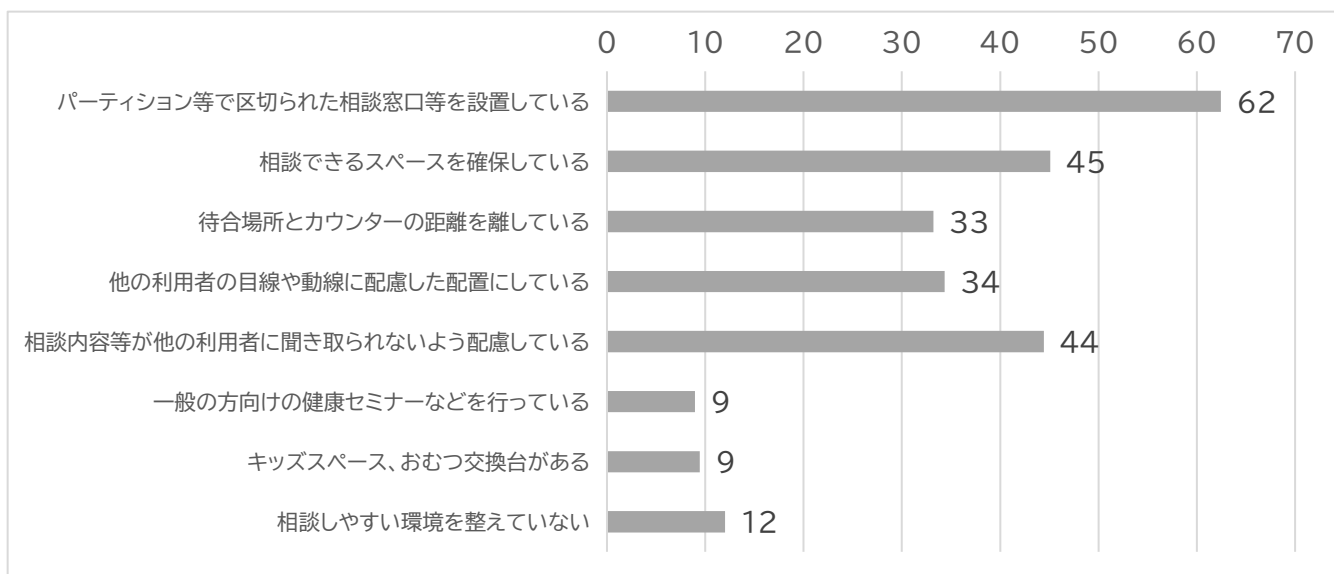


図1 薬局において健康相談に対応するための環境整備状況

一方、妊娠中、授乳中等に関する相談応需体制については、体制を整備している薬局は全体の約35%にとどまった（図2）。

妊娠中、授乳中等に関する相談応需体制を整備している薬局では、「相談応需できることを薬局内に掲示している」が20%、「相談可能時間の掲示」が10%、「相談対応できる薬剤師の掲示」が4%等であった。

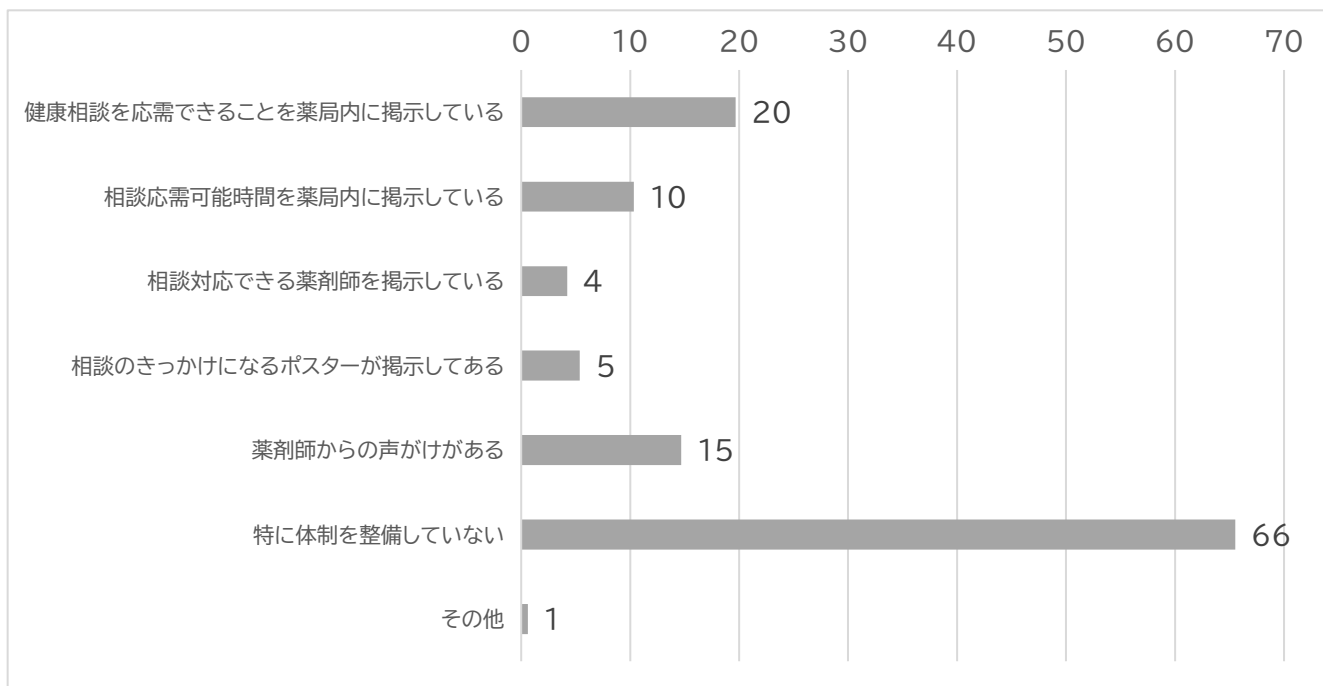


図2 妊娠中、授乳中等の相談に関する応需体制の整備状況

妊娠中、授乳中等の相談対応において、医療機関等と連携している薬局は全体の3%で、医療機関との連携が不十分であると考えられた（図3）。

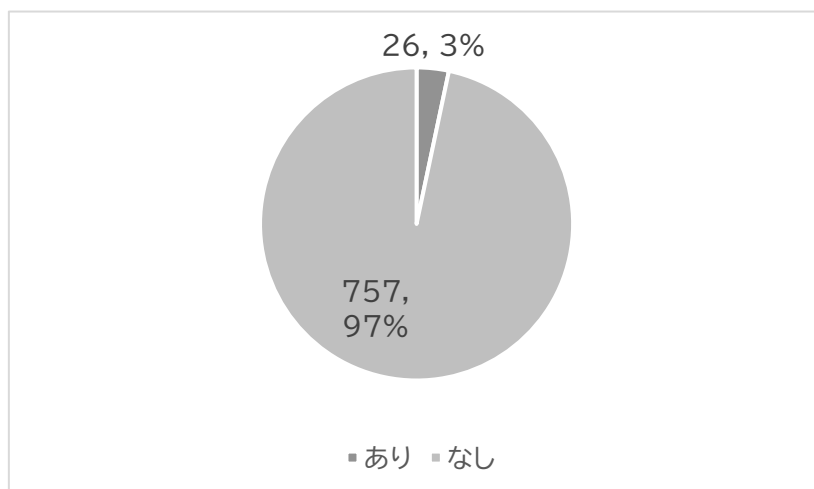


図3 妊娠中、授乳中等の相談対応に関連する医療機関等の連携

(2) 県民に対する健康相談に関する調査

■ 目的：

本調査では薬局の健康サポート機能の県民の認知度を調査し、県民の健康相談の実態を調査する。

■ 調査期間及び方法：

令和4年12月～令和5年2月

インターネット調査（200名）、期間中開催した県民のための薬のセミナー出席者（会場調査）

■ 調査内容及び結果：

インターネット調査として200人、県民のための薬セミナー参加者171人の回答を得た。調査対象者の性別及び年代を図4に示す。

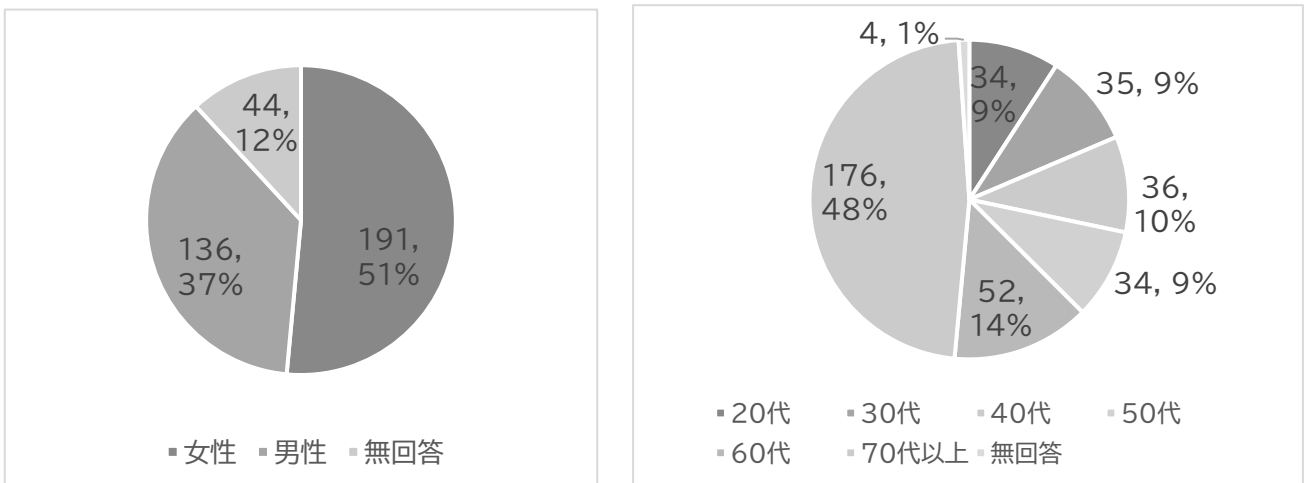


図4 調査対象者の性別及び年代

アンケートの結果、「かかりつけ薬剤師やかかりつけ薬局を持っているか」との設問に対し、「はい」との回答が57%、「いいえ」が40%と、かかりつけ機能を活用しているとの回答が上回った（図5）。

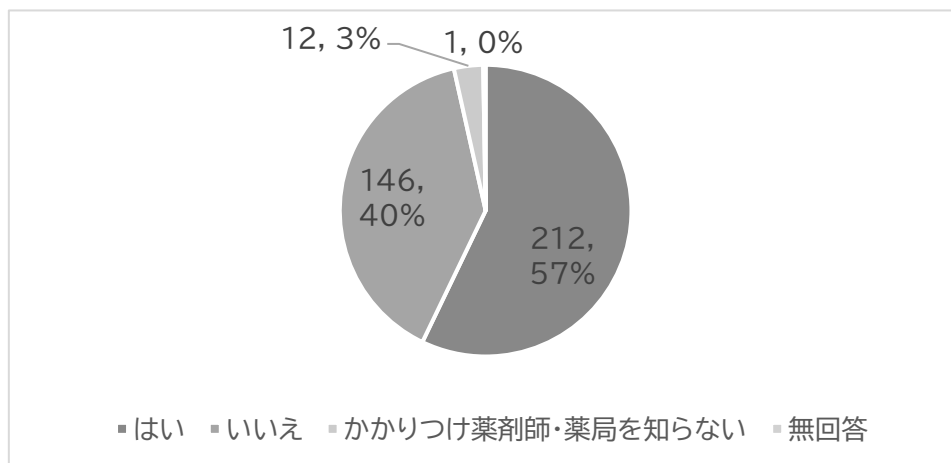
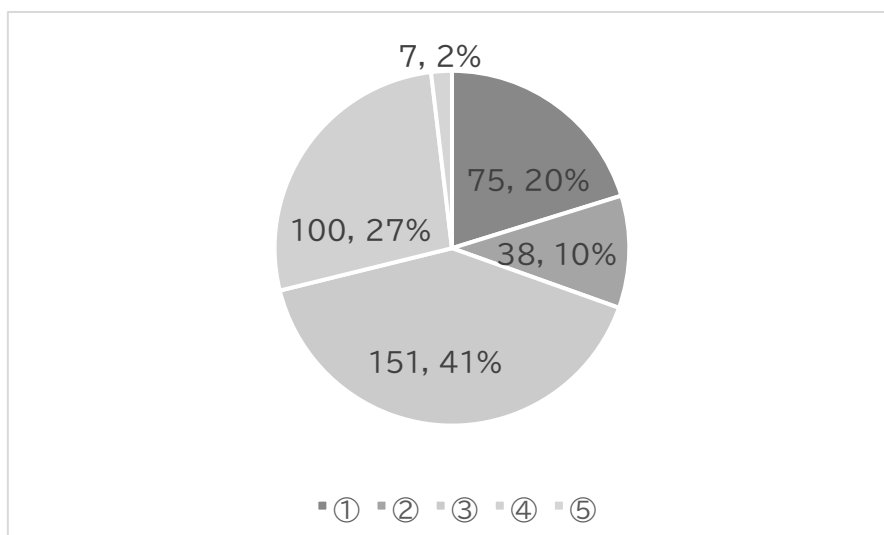


図5 かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局の活用状況

薬局で病気や健康、予防について相談できることの認知度及び相談の経験については、図6のとおり「知っている」との回答が71%であったが、相談したことがあるのは20%と少なかった。また、相談したことがある方に対し、相談の際の薬剤師の回答状況について設問したところ、「回答が得られた」が全体の90%以上を占めた（図7）。



- ① 知っている、相談したことがある
- ② 知っているが、相談したいことはない
- ③ 知っているが、相談したいことはない
- ④ 相談できることを知らなかった
- ⑤ 無回答

図6 薬局の相談機能の認知度及び相談の経験

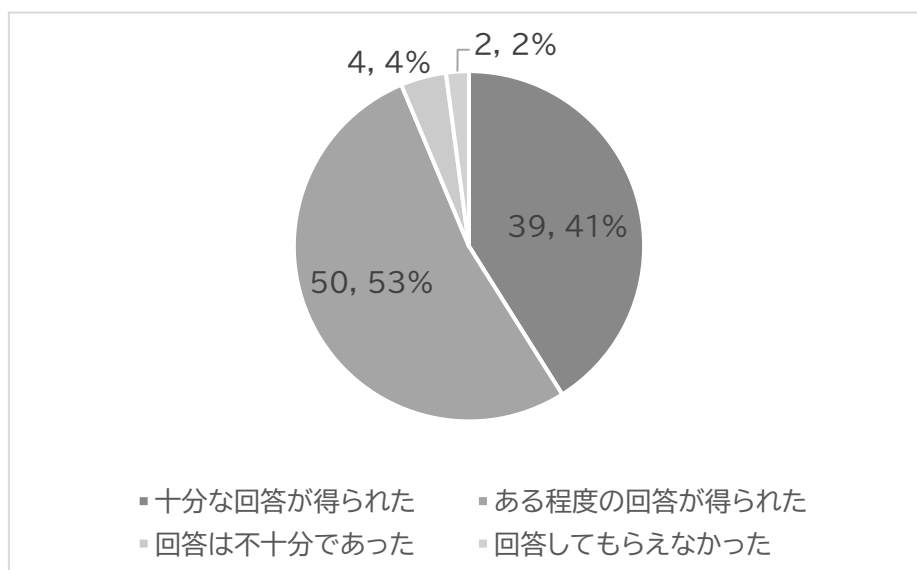
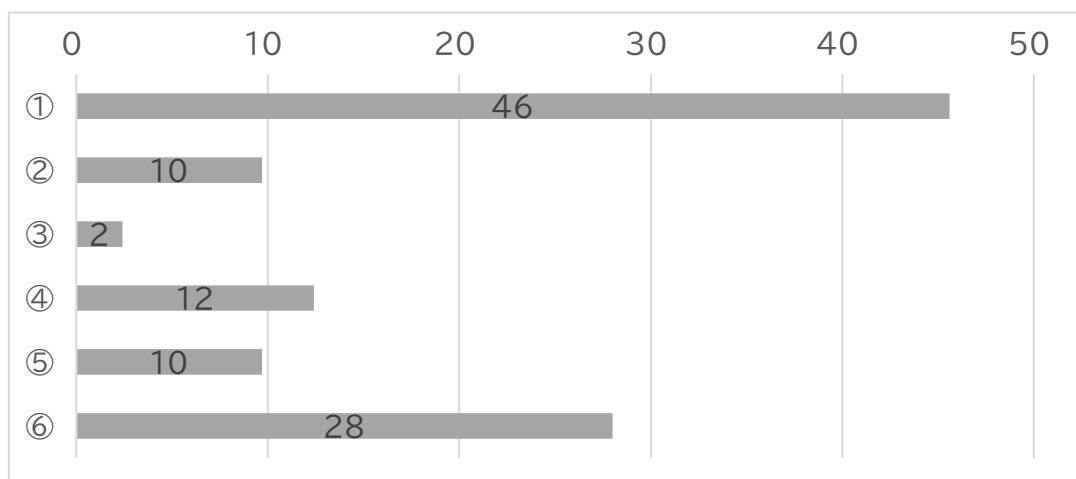


図7 相談に対応する薬剤師の回答状況

薬局で相談したい内容としては、「市販の薬の選び方、使い方」が46%を占めた（図8）。ついで、「相談したい内容はない」が28%等となった。

薬局の相談機能については徐々に認知されつつあるが、県民が相談したいと実感できる状況には至っていないと推察された。薬局には、多様な相談に対応でき、県民に相談したいと感じていただけるよう相談応需体制の整備、拡大が望まれる。



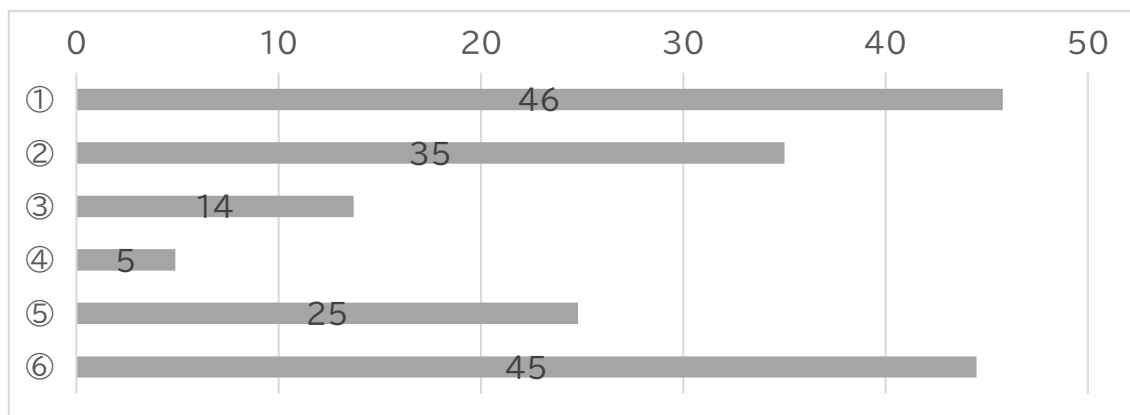
- ①市販の薬の選び方、使い方
- ②薬物療法を始める前の生活習慣の改善策
- ③禁煙に関する相談
- ④更年期障害等、病気ではないが不快な症状(不定愁訴)に関する相談
- ⑤予防接種に関する相談
- ⑥相談したい内容はない

図8 薬局で相談したい内容

相談しやすい薬局についての設問への回答では、「相談専用スペースがある」、「薬剤師からの声かけがある」が約45%、「相談対応時間、対応できる薬剤師が明示されている」が35%等であった（図9）。

他方、「商品が豊富に取り揃えてある」は14%と他の他少なかった。

薬剤師からの積極的な声掛けや、相談対応時間や対応する薬剤師を明示することが、県民の相談しやすさにつながると考えられた。



- ①相談専用スペースがある
- ②相談対応時間や対応できる薬剤師が明示されている
- ③商品が豊富に取り揃えてある
- ④キッズスペース、おむつ交換台がある
- ⑤相談のきっかけになるポスターが掲示してある
- ⑥薬剤師からの声かけがある

図9 薬局で相談したい薬局

2 薬局薬剤師に対する研修の実施

(1) 妊娠・授乳と薬 基礎研修

■ 研修会名称：

すべての薬剤師に知ってほしい「妊娠・授乳と薬」研修会

■ 目的：

妊娠中・授乳中等に関する適切な情報提供を行うことができる薬局の体制を整備することを目指し、県内の薬局薬剤師の妊娠・授乳期の服薬に関する基礎知識のボトムアップを図ることを目的とした。

■ ねらい：

- ▷ 妊娠前から出産後、授乳中における服薬に関して適切に情報提供するための基礎知識を習得する。
- ▷ 妊娠・授乳に関して情報提供を行う際の適切な対応、医師等との連携方法を習得する。
- ▷ 適切な情報が入手困難である場合の対応方法を習得する。

■ 日時：

令和5年1月15日（日）10：00～12：00

■ 会場：

新潟県薬剤師会 会議室（web配信）

■ 開催方法：

ハイブリッド型研修（集合研修及びZoomウェビナーによるweb配信研修）

■ プログラム：

- 1 開会挨拶
- 2 講演「薬剤と妊娠・母乳 ―メリットとデメリット―」
講師：新潟市民病院 産婦人科 田村正毅先生
- 3 講演「『妊娠・授乳と薬』の悩みに対して支援のできる薬剤師になるために」
講師：国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター 八鍬奈穂先生
- 4 閉会挨拶

■ 事業成果：

① 受講者数及び修了者数

受講者数 414名

修了者数 402名

② 研修の成果

受講後、基礎知識、患者への情報提供、医師との連携方法、情報が入手困難である場合の対応方法について、それぞれ習得できたか、受講者へアンケートを行った。大多数が習得できたと回答し、研修の目標は達成できたと考える（図10～12）。

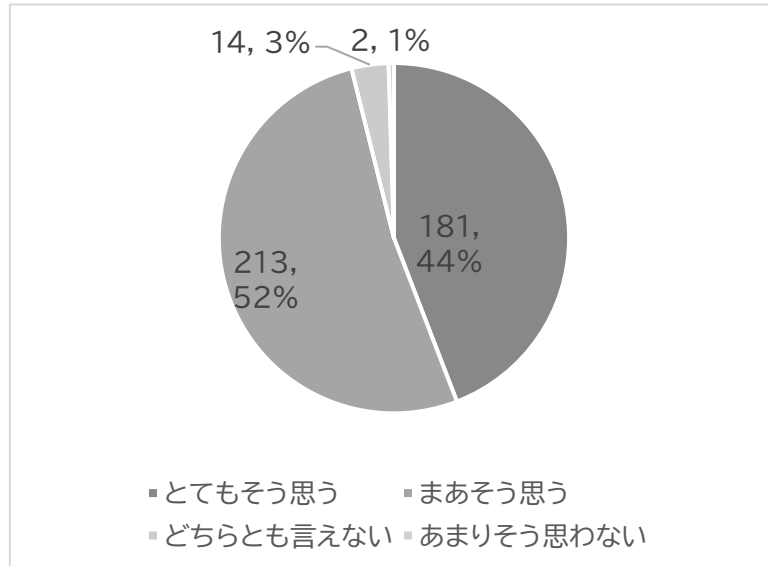


図10 妊娠・授乳と薬の基礎知識を習得できたか

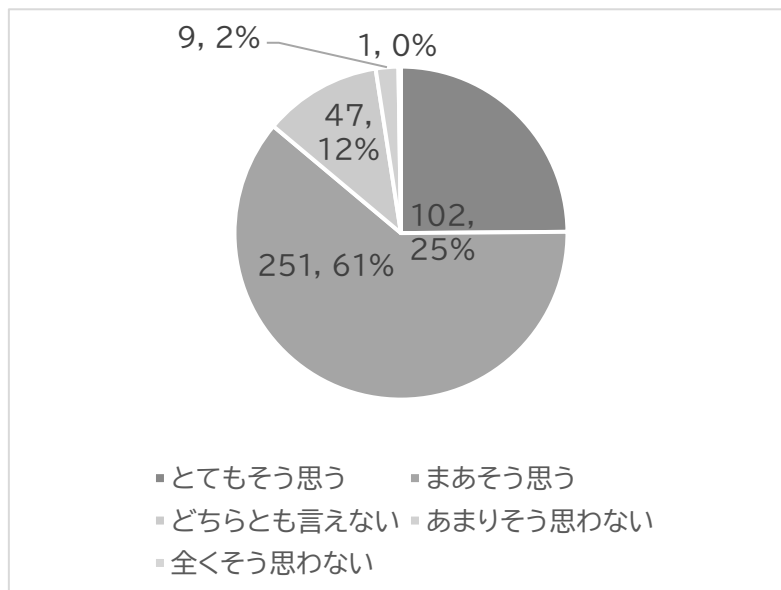


図11 妊娠・授乳と薬に関する患者への情報提供、医師との連携方法を習得できたか

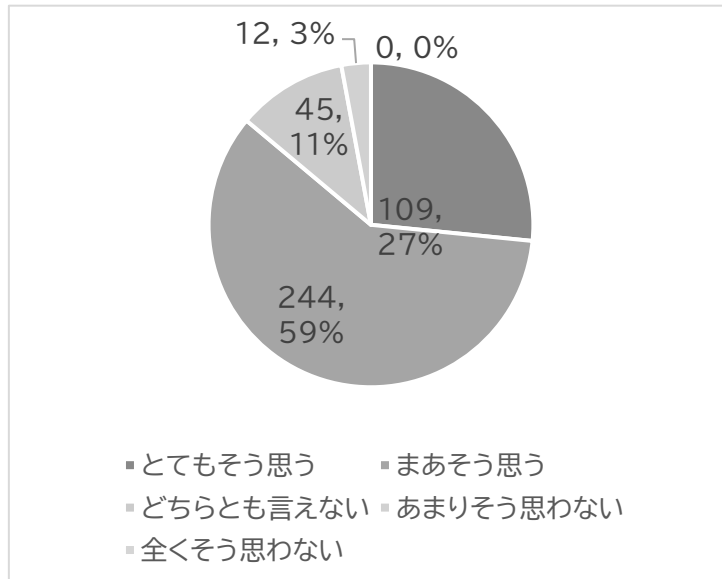
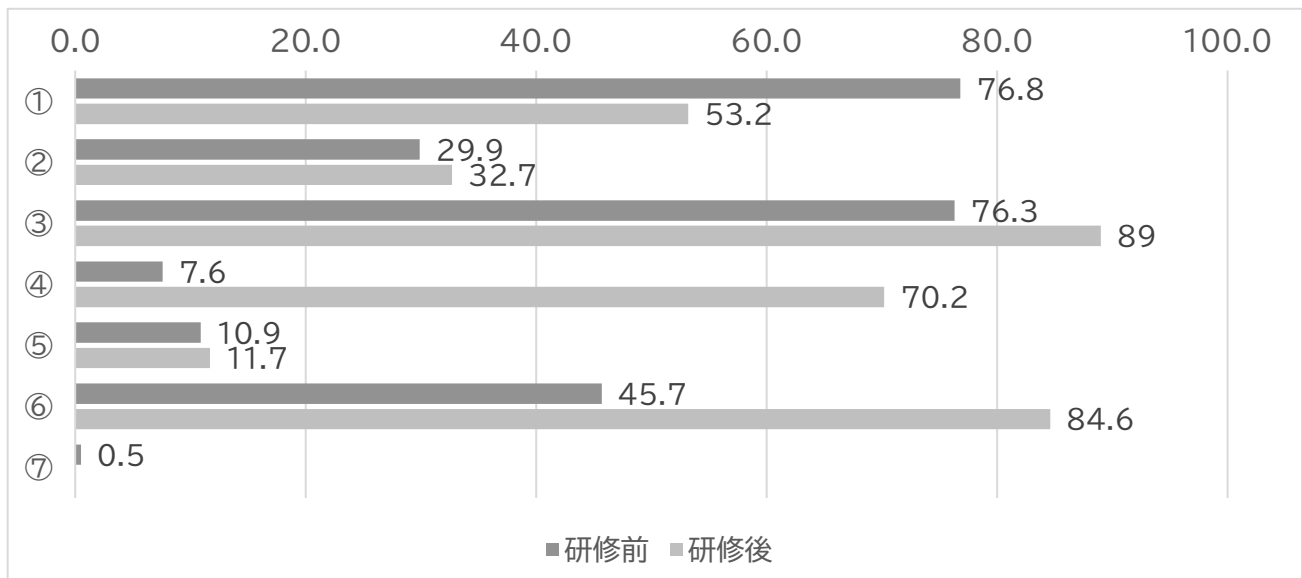


図 12 薬に関する情報が入手困難である場合の対応方法を習得できたか

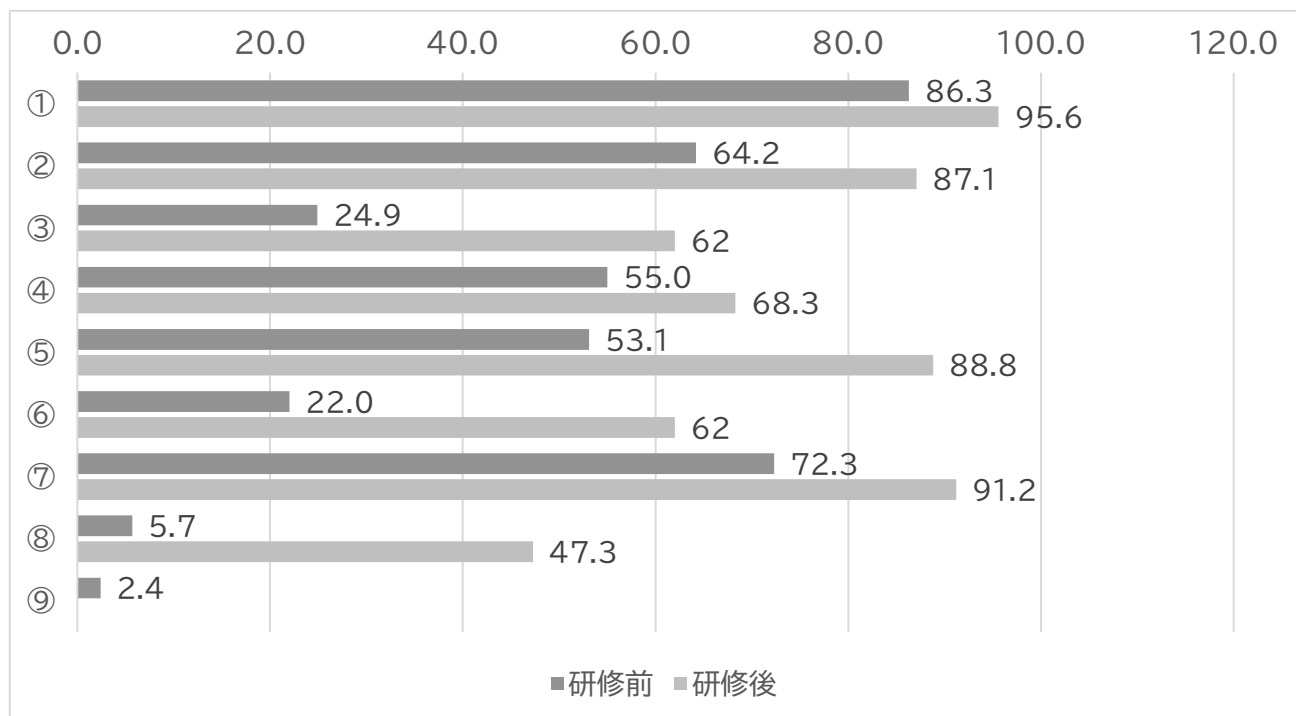
服薬指導時の情報収集、配慮について、研修の前後でアンケートを行った（図 13）。受講前は添付文書が 76.8%であったのに対し、受講後は 53.2%に減少した。また、産婦人科ガイドラインが 7.6%から 70.2%に、成育医療研究センターホームページが 45.7%から 84.6%に上昇し、添付文書情報の不十分さや、様々なデータを指導に活かす必要性が理解されたと考える。



- ① 薬剤の添付文書
- ② 薬剤のインタビューフォーム
- ③ 妊娠、授乳と薬に関する書籍
- ④ 産婦人科診療ガイドライン「産科編 2020」、「婦人科外来編 2020」
- ⑤ 製造販売業者へのお問合せ
- ⑥ 国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センター ホームページ
- ⑦ 薬剤の妊娠中、授乳中の使用可否等について情報収集していない(研修前のみ)

図 13 妊娠中、授乳中の薬剤の使用に関する情報収集の方法(研修前後の比較)

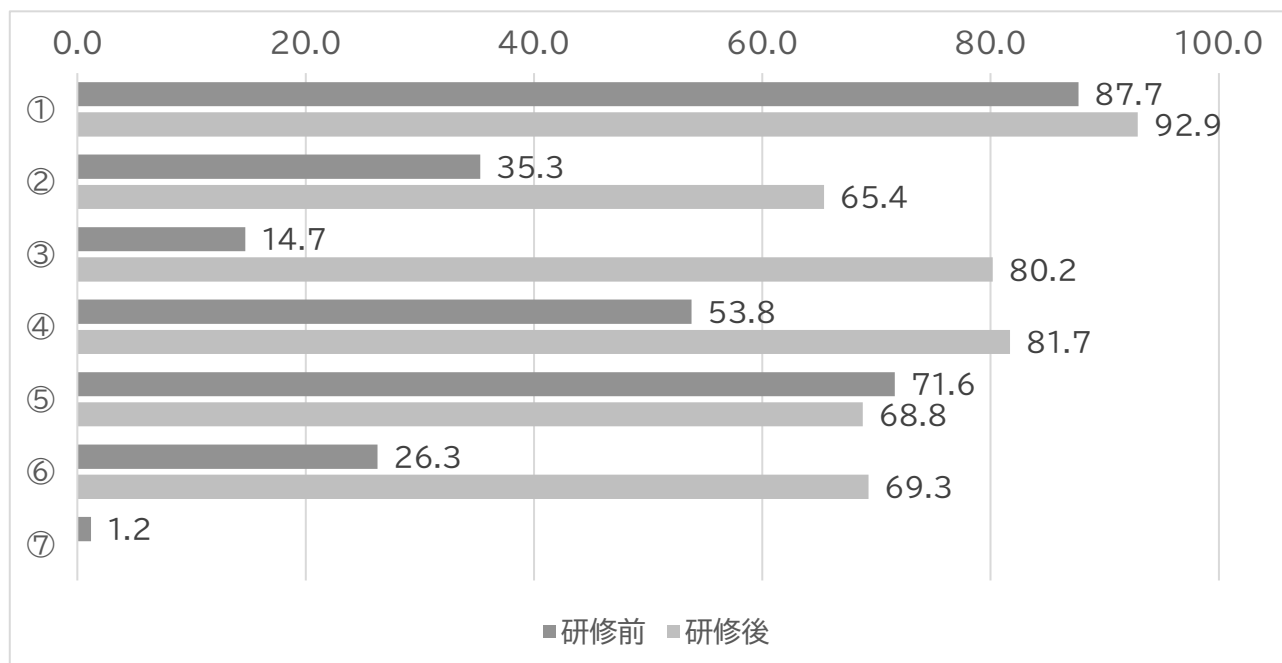
妊娠中、授乳中の方に服薬指導、支援を行う際の患者インタビューについては、「病状に関する不安の有無と内容」が22.0%（受講前）から62.0%（受講後）に、「離乳食の進み具合、量」が24.6%（受講前）から62.0%（受講後）に、「家族の意向」が5.7%（受講前）から47.3%（受講後）にそれぞれ上昇した（図14）。患者の状況に配慮した服薬指導、服薬支援を行う必要があることの理解が得られたと考えられる。



- ①妊娠週数、乳児の月齢
- ②(授乳中の方)授乳回数及び間隔
- ③(授乳中の方)離乳食の進み具合、量
- ④当該薬剤のこれまでの服用歴
- ⑤服薬に関する不安の有無とその内容
- ⑥病状に関する不安の有無とその内容
- ⑦薬剤について、医師からの説明内容
- ⑧家族の意向
- ⑨妊娠中、授乳中の方に限った患者インタビューはしていない(研修前のみ)

図14 妊娠中、授乳中の方に行う患者インタビュー(研修前後の比較)

服薬指導、支援を行う際の配慮については、「ベースライン・リスクについて説明を行う」が14.7%（受講前）から80.2%（受講後）に、「服薬に関して最終的に本人が判断できるように支援する」が26.3%（受講前）から69.3%（受講後）に、「エビデンスに基づき正しく説明する」が35.3%（受講前）から65.4%（受講後）にそれぞれ上昇した（図15）。薬剤師には薬に関して本人が正しく理解すること、最終判断は本人が行うことができるよう支援することが求められていることの理解が得られたと考える。



- ① 医師からの病状、薬に関する説明内容を把握し、食い違いがないようにする
- ② エビデンスに基づいて正しく説明する
- ③ (妊娠中の方)ベースライン・リスクについて説明を行う
- ④ (妊娠中の方)現時点(妊娠週数)の服薬可否と、妊娠期別の服薬の注意点を説明する
- ⑤ (授乳中の方)授乳と服薬のタイミングについて情報提供する
- ⑥ 服薬に関して最終的に本人が判断できるように支援する
- ⑦ 妊娠中、授乳中の方に限った配慮はしていない(研修前のみ)

図15 妊娠中、授乳中の方に服薬指導や服薬支援を行う際の配慮(研修前後の比較)

(2) 妊娠・授乳と薬 相談対応スキルアップ研修

■ 研修会名称：

「妊娠・授乳と薬」相談対応 実践研修会

■ 目的：

妊娠中、授乳中の方に対して適切に服薬指導、相談対応ができる薬剤師を育成する。

■ ねらい：

- ▷ 薬学的評価をするために必要な患者情報を収集するスキルを習得する。
- ▷ 妊娠・授乳中の薬剤使用についてエビデンスに基づく情報を収集するスキルを習得する。
- ▷ 収集した情報を、患者に対して個別最適化して伝えるスキルを習得する。

■ 日時：

令和5年2月19日（日）13：00～16：35

■ 会場：

新潟県薬剤師会 会議室から配信

■ 開催方法：

Zoom ミーティングによるWeb研修

■ プログラム：

- 1 開会挨拶
- 2 講演「妊婦・授乳婦に対する薬カウンセリングの方法～薬効別の相談事例も含めて～」
講師：国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター 三浦 寄子先生
- 3 グループワーク「相談対応の実践」
進行：新潟県薬剤師会 常務理事 大黒 幸恵
講師：国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター 八俣 奈穂先生
 - (1) ワーク1 妊娠中の女性からの相談対応
 - (2) ワーク2 授乳中の女性からの相談対応
 - (3) 総括
- 4 閉会挨拶

■ 事業成果：

① 受講者数及び修了者数

受講者数 59名

修了者数 57名

② 研修の成果

受講後、ねらいに掲げた「薬学的に評価するために必要な相談者（患者）情報の収集」、「エビデンスに基づく正しい情報収集」、「相談者に対し個別最適化した情報伝達」のスキルを習得できたか、受講者へアンケートを行った（図 16～18）。いずれも、90%以上の方がそう思うと回答し、研修のねらいは達成できたと考える。

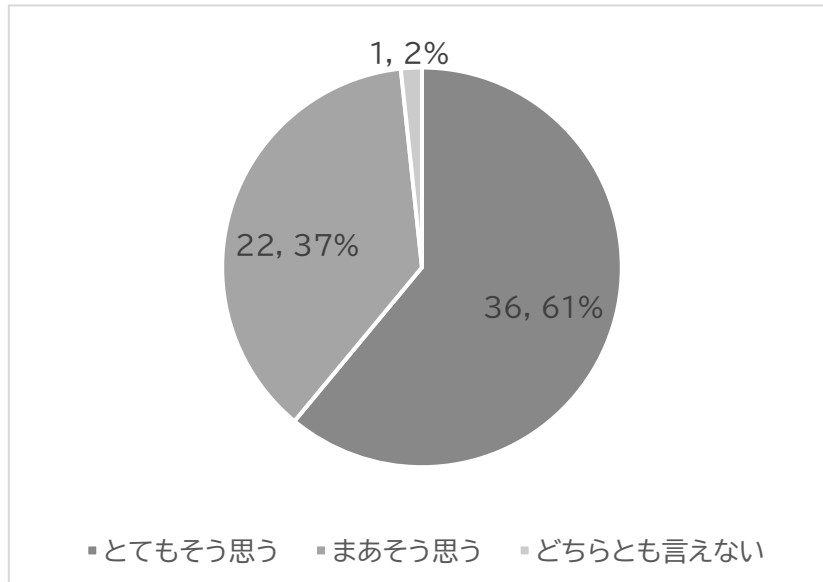


図 16 薬学的に評価するために必要な相談者(患者)情報を収集するスキルを習得できたか

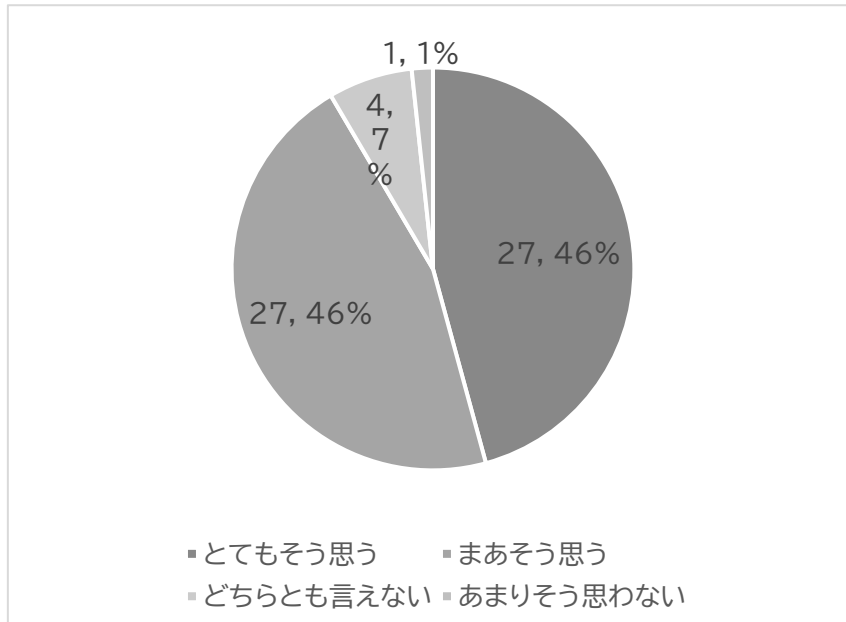


図 17 エビデンスに基づく正しい情報を収集するスキルを習得できたか

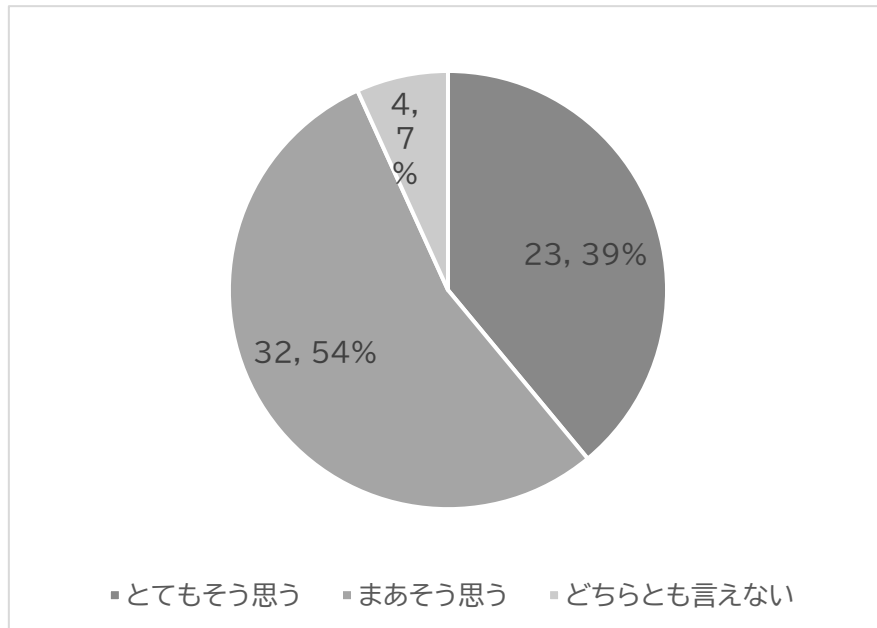
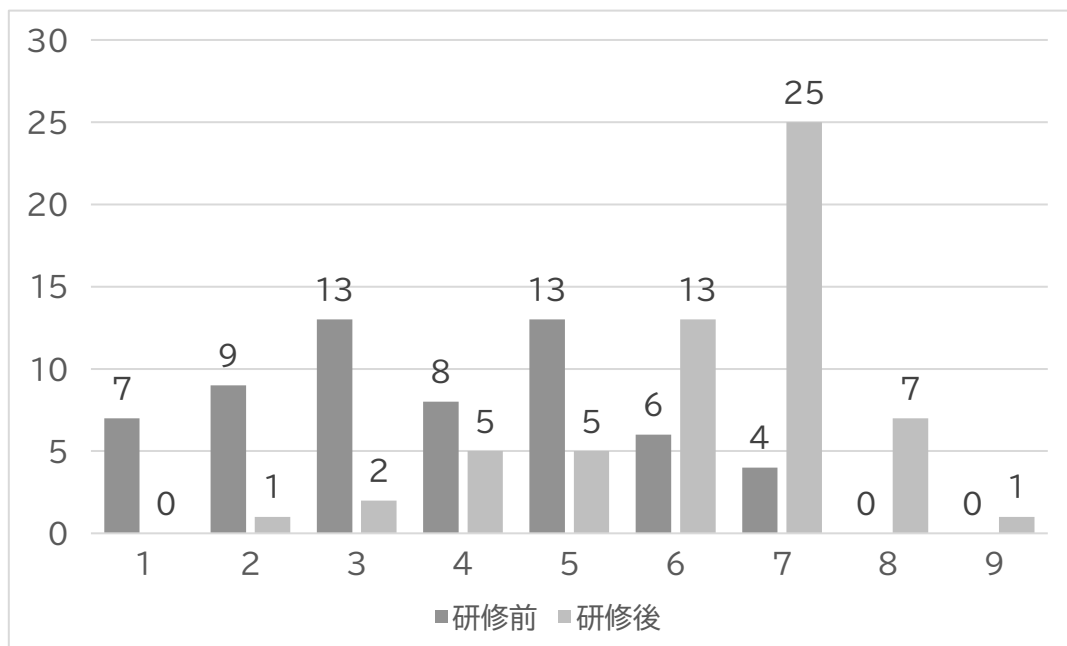


図 18 正しい情報を、相談者(患者)に対して個別最適化して伝えるスキルを習得できたか

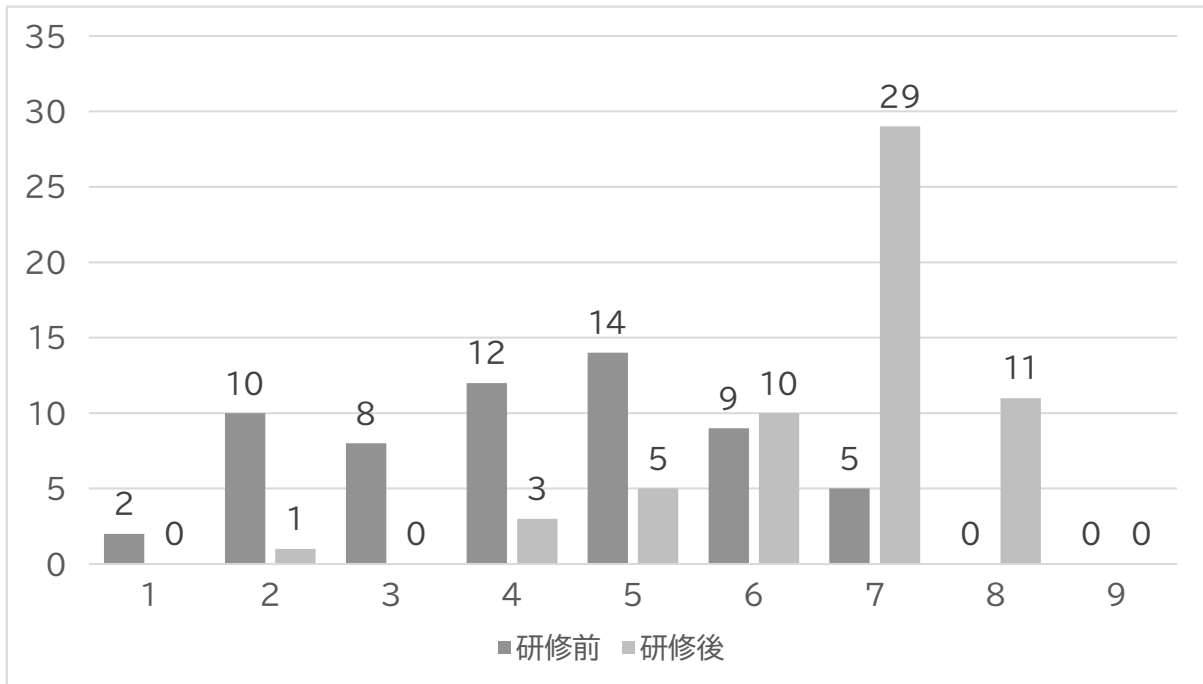
妊娠中、授乳中の相談対応時の留意点に関して、研修前後で「自信がない」を1、「自信がある」を9とした9段階で自己評価をしていただき、集計した(図19~22)。

その結果、研修後では、「様々な医学的研究等の情報の収集」は2.5、「相談者の背景、状況等の情報の収集」は2.4、「相談者が正しく判断するための支援」は2.3、「相談者の心情、心理を十分理解した適切なアドバイス」は2.2と、それぞれ上昇した。



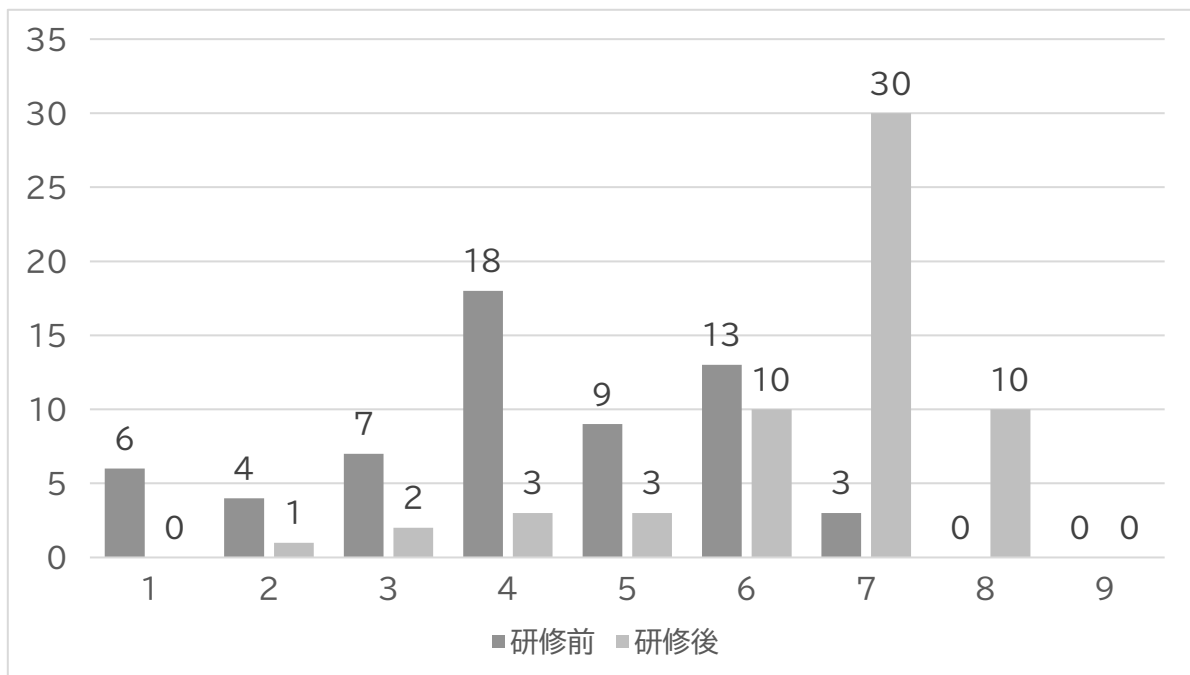
平均値 研修前: 3.75 ⇒ 研修後: 6.29

図 19 薬剤の使用等に関して、様々な医学的研究等の情報の収集



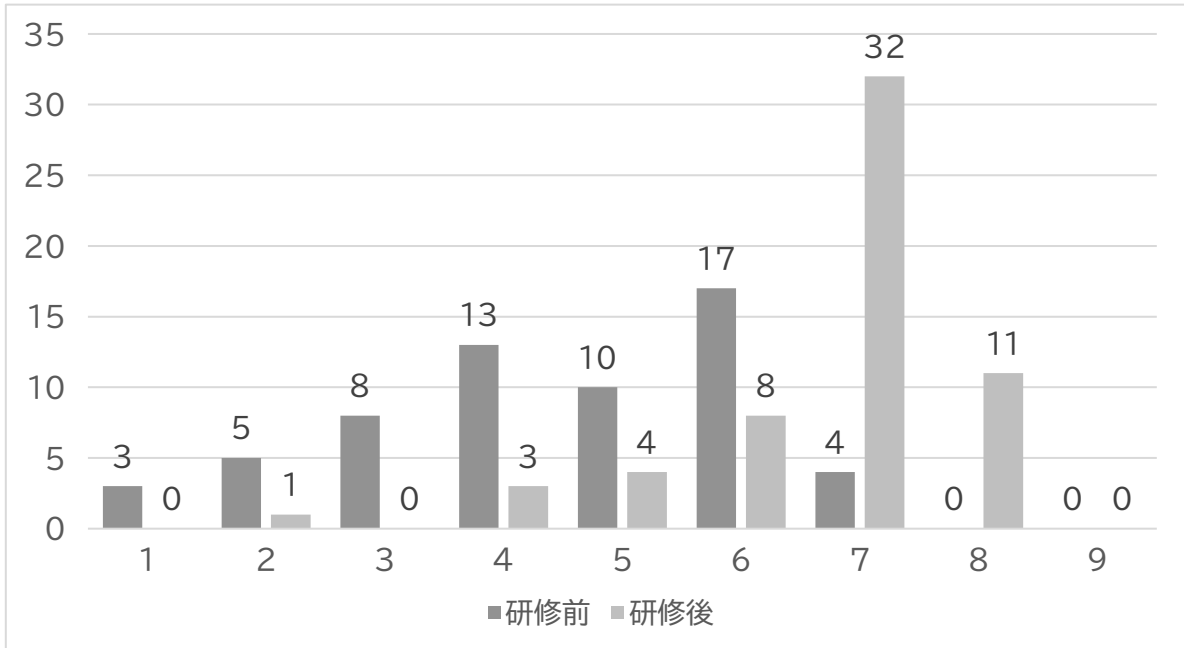
平均値 研修前: 4.22 ⇒ 研修後: 6.61

図 20 相談者の背景、状況等の情報の収集



平均値 研修前: 4.18 ⇒ 研修後: 6.53

図 21 相談者が正しく判断するための支援



平均値 研修前: 4.48 ⇒ 研修後: 6.68

図 22 相談者の心情、心理を十分理解した適切なアドバイス

3 対応薬剤師・薬局リストの作成と薬局間連携ツールの導入

(1) 「すべての薬剤師に知ってほしい『妊娠・授乳と薬』研修会」修了薬剤師リストの作成・公表
県内に居住・勤務する修了者 384 名の名簿を新潟県薬剤師会ホームページに公開した。

■ 名称：

すべての薬剤師に知ってほしい「妊娠・授乳と薬」研修会 修了者名簿

■ 掲載項目：

研修を修了した薬剤師の氏名、勤務先名

■ 公表の方法：

新潟県薬剤師会ホームページに掲載

<http://www.niiyaku.or.jp/information/motherandchild>

(2) 相談対応薬局リストの作成・公表

■ 名称：

「妊娠と授乳のくすり相談」対応薬局リスト

■ 掲載項目：

相談対応できる薬局の名称、所在地、連絡先、相談対応時間帯、研修を修了した薬剤師の氏名

■ 掲載薬局数：

46 薬局（研修修了薬剤師数 61 名）

■ 公表の方法：

新潟県薬剤師会ホームページに掲載

<http://www.niiyaku.or.jp/information/motherandchild>

■ 啓発資材：

対応薬局には、相談対応に係る掲示物（2種類）を配布した（図23）。



図23 「妊娠と授乳のくすり相談」対応薬局 薬局内掲示物

対応薬局リストには、県民が相談しやすいと感じられるよう、相談対応時間帯及び対応薬剤師氏名を掲載した。

また、対応薬局の研修修了薬剤師には相談対応シールを送付した（図24）。

薬剤師の名札や、薬剤師氏名と業務を記載した掲示物等に貼付することで、相談対応できる薬剤師を県民に広く認識していただくために活用されることに期待する。

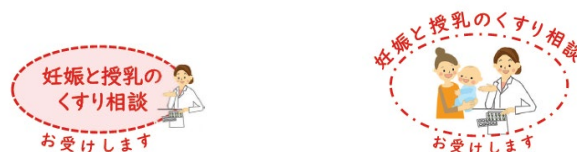


図24 「妊娠と授乳のくすり相談」対応薬局 研修修了薬剤師用相談対応シール

(3) 相談対応薬局間の情報連携ツールの導入

■ 目的：

「妊娠と授乳のくすり相談」対応薬局で相談を応需する際の後方支援として活用する。

■ ツール：

LINE WORKS

■ 対象者：

『妊娠と授乳のくすり相談』対応薬局」に勤務し、研修を修了した薬剤師

■ 活用例：

- ① 来局者からの相談等で、自薬局だけでは対応できない、あるいは、判断に迷った場合の薬剤師への相談
- ② 相談対応した事例に関して、他の薬剤師にも情報共有（相談に関する好事例や対応後の情報共有等）

■ 導入時期：

令和5年3月末から、順次運用。

4 医療機関等との連携

■ 啓発資材：

啓発用のチラシを作成、配布し、周知依頼等を行った（図 25）。



図 25 啓発リーフレット

■ 周知先：

- ① 新潟県産婦人科医会
- ② 新潟県医師会 母子保健部会
- ③ 新潟県福祉保健部 健康づくり支援課 母子保健係
- ④ 新潟県福祉保健部 感染症対策・薬務課 薬務係
- ⑤ 新潟県産婦人科医会 会員医療機関

Ⅲ まとめ

本事業では、新潟県内の薬局における妊娠と授乳等、女性の健康に関する相談等への対応状況と、健康相談のために来局しやすい環境の整備状況を把握し、また、薬局薬剤師に対して基礎研修及び相談対応スキルアップ研修を実施した。

基礎研修では研修前後での受講者アンケートの結果から、研修の習得目標は達成できたと考えられ、県内の薬剤師のボトムアップにつながったと考える。

また、相談対応スキルアップ研修を開催することで、必要な情報を収集し、相談に対応できる薬局・薬剤師を『妊娠と授乳のくすり相談』対応薬局」リストとして公表した。県内において、こうした取組は行われておらず、大きな第一歩となったと考える。このような薬局の健康サポート機能を、県民に分かりやすい形で公表することで、県民が薬局・薬剤師に相談してみようという意識の向上、県民からの相談対応の増加につながることに期待する。

関係機関等との連携として、県産婦人科医会、県医師会、行政へ情報提供を行った。

情報提供の際、医師からは、妊娠中の服薬については非常に難しい問題である、あるいは、公的資格ではないといったご意見もいただいた。今後、薬剤師はより一層のスキルアップを図り、患者へ適切で安全な薬物療法を提供できるよう、医師等との信頼関係を構築していき、妊娠と授乳に関する相談に関して薬局がしっかりと対応できるよう、引き続き取組を実施したい。

IV 今後の取組

薬局におけるかかりつけ機能として、妊娠中・授乳中に関する適切な情報提供をはじめ、女性の健康相談に薬局が対応していくことを目指し、今年度は妊娠と授乳に関する相談対応をテーマにモデル事業を実施した。

『妊娠と授乳のくすり相談』対応薬局」のリストに掲載されている薬局は地域薬剤師会ごとに1薬局以上確保できたが、全体の薬局数としては県内の薬局の約4%であり、今後のリスト掲載薬局の拡大を目指したい。また、薬局において幅広い分野での相談に応じることが望まれる。

上記のような横展開を目指し、今後、以下の取組（案）を行う方向で検討を進めたい。

（1）薬剤師向け研修の継続

相談対応スキルアップ研修は、年1回を目途として継続して開催する。研修内容は薬剤情報の収集や薬学的アセスメントに関する内容を盛り込む等、ブラッシュアップを図る。

基礎研修は数年に1回程度を目途として継続的に開催する。

（2）『妊娠と授乳のくすり相談』対応薬局」のリストの拡大

『妊娠と授乳のくすり相談』対応薬局」のリストについては、研修の継続開催によりリスト掲載薬局の拡大を図り、年1回を目途として変更の有無などを確認する。

（3）相談対応薬局に関する周知・啓発

今年度は行政及び県産婦人科医会への情報提供にとどまったが、今後は、県助産師会、市町村の母子保健担当への情報提供等を行い、関係機関の取組との連携を図りたい。

また、県民のための薬のセミナーや行政ホームページ掲載、保険者（協会けんぽ等）からの広報を通じ、県民へ周知する。

（4）相談対応薬局間での情報連携

LINE WORKS を活用した薬局間情報連携ツールを運用し、相談に対応する薬剤師の後方支援を行う。

月1回程度を目途とし、様々な情報発信も行いたい。

（5）相談できる項目の拡大

妊娠と授乳に関する相談対応の充実を優先課題とするが、その後は他のテーマ（更年期障害、子宮頸がんワクチン 等）に関しても研修を開催する等して、幅広い相談対応を目指したい。